

地震工学会
津波などの突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会
第13回研究委員会 議事録(案)

1. 日 時：2014年12月6日(土) 15:00~17:00
2. 場 所：クロス・ウェーブ幕張 小研修室
3. 出席者：後藤, 山本, 荒木, 小山, 佐藤, 村上, 久保, 山本(オブザーバ), 脇浜(オブザーバ),
Leonel Ramos(オブザーバ)
4. 資 料：
資料13-1 議事次第
資料13-2 第12回議事録(案)
資料13-11 避難の研究委員会 予算の執行状況(2014.12.3)
5. 議事内容：
 - 5.1 議事録確認(荒木委員)
 - ・ 第12回の議事録確認を行った。
 - 5.2 各部会の報告
 - (1) 都市避難部会(後藤委員長)
 - ・ 都市避難部会の検討状況、今後の予定に関する報告があった。主な報告事項は以下のとおり。
 - ① 12/24に地震工学会主催で見学会の計画説明がなされた。
 - ② OS-10だけを取り出して、会長特別委員会とあわせて論文特集号とする予定である。
 - (2) 津波避難部会(佐藤部会長)
 - ・ 津波避難部会の検討状況、今後の予定に関する報告、並びに後藤委員長より調査結果のとりまとめ状況について報告があった。主な報告事項は以下のとおり。
 - ① アンケート調査結果、ポスティングデータは通しで見直しを行った。これをもって調査結果データは最終版(公開版)とする。
 - ② 中土佐町へは簡易避難シミュレーション結果も含めて報告を行うが、時期等は未定。
 - (3) シミュレーション部会(荒木委員)
 - ・ シミュレーション部会の検討状況、今後の予定に関する報告があった。主な報告事項は以下のとおり。
 - ① 避難シミュレーションのV&Vのマニュアルは概ね完成し、公募をかける段階である。
 - 地震工学会の研究会ページにリンクを張ることは可能である。
 - 公募については、トップページにバナーを貼るか、トピックスに入れる等、目につく方法を取る必要がある。
 - 公募を広く募るためには、マニュアルの英文化が必要ではないか。また、各学会の関連セッションに投稿している人を一本釣りするなどの積極的をお願いしていく必要があるのではないか。
 - 公募について、どのようなページにするか部会にて掲載内容案を作成する。

→本研究会の最終WSは、本内容を主体として考えている。

② 地震工学シンポジウムのOSについては具体的内容等が決まり次第、周知する予定である。

(4) 国際部会（村上部会長）

- ・ 国際部会の検討状況、今後の予定に関する報告があった。主な報告事項は以下のとおり。
 - ① 論文特集号に活動報告として検討内容を取りまとめた結果を投稿済みである。

5.4 地震工学シンポジウムの総括（後藤委員長）

- ・ 当初想定したものより幅広い論文投稿があり、よいセッションとなった。
- ・ 津波避難合同調査団の活動は本シンポジウムを持って区切りとする。今後は南海トラフ地震等を見据えて幅広く活動していきたい。
- ・ 得られた課題を繰返し発信していくことが重要ではないか。
- ・ 本当に逃げられるのか、ネガティブな情報を伝えるべきなのか、伝えた後どうするのか、等についてより深い議論が必要だと考えている。

5.5 論文特集号（後藤委員長）

- ・ 予定された投稿はすべて終了しているがスケジュールは遅れ気味である。
- ・ 査読依頼から1カ月が締切であるため、必要に応じて査読者に催促する必要がある。
- ・ 部会報告を行った執筆者には投稿料に相当する原稿料を支払うこととしたい。
- ・ 研究委員会の活動報告はHPへの掲載でよいが、論文形式で行うものとする。

5.6 今後の予算について（山本幹事長）

- ・ 本年度残金があるため、各部会から要望を挙げること。
- ・ 寄付金（50万-10万=40万円）があるため、委員旅費等に充当することが可能である。

5.7 シンポジウムについて（後藤委員長）

- ・ 久田部会長が携わる会長特別委員会のワーキングと合同開催する方針とする。具体的な内容は12/24に調整する。
- ・ 日程は3月上旬とする。ただし仙台での国連会議及び3/11は外す。
- ・ 国際部会は報告をそのままするのではなく、切り口を変えることが望ましい。
- ・ 全体時間の半分をシミュレーション部会、残り時間を他部会またはゲストスピーカーに充てる方針とする。

5.8 その他

- ・ 委員への委託状が必要であるため、早急に対応する。
- ・ オブザーバとして参加された山本氏より自己紹介があった。

以上